

# 令和5年度 日本大学自主創造プロジェクト 日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2023012

プロジェクト名 日本大学と佐渡島の連携による見いかなサイエンスと自然の旅：コンテンツの提供による国際的な発信

## プロジェクトの概要

本プロジェクトは、佐渡島を「サイエンスの島」として島内外に本学の学生が広報することを通じ、地元の小中高校、佐渡市、東京・地元の企業の産官学の連携・高大連携のフレームワークの土台を形成することを目指す。

昨年度の活動により、佐渡島は「自然」という素材が豊富であるにも関わらず、島民は、身近すぎて島の良さに気づけていない現状であった。大学生の目線から、佐渡島の魅力を伝えるため、芸術学部と協力しプロジェクトに取り組んだ。

## プロジェクトの結果・成果

今年度の達成目標として掲げた第一段階は概ね達成できたと考える。

まず、「身近なサイエンス」を伝えるという点では、商学部はサイエンスをより身近で親しみやすくするべく文系の目線から伝える活動に注力した。2023年7月に開催されたサイエンスフェスにて、参加のハードルを下げるため、プラネタリウム工作といった興味を持ってもらいやすい、星座に焦点を当てたワークショップ・プログラムを考案した。二回開催し、共に上限数の10人の参加者に満足して頂くことが出来た。さらに、小中学生が佐渡の自然に触れるという、ジオパークを中心とするフィールドワークを引率し、島外の小中学生のサイエンスへの興味を高めた。

「佐渡の魅力を伝える」という点では、芸術学部が、佐渡の自然の魅力を生かした動画撮影を行った。DMOや島民への聞き取りの中で、大学生の目線で撮った動画が欲しいとの意見を伺い、Vlogのような形での撮影となった。2023年12月、首都圏の『御金荷の道ウォーク』においては、催事の手伝いをし、佐渡関係者及び新潟日報の本校出身の記者とともに板橋から日本橋まで、江戸時代の旅姿装で歩き、佐渡市長や元副市長の話をついた。佐渡関係者の世界遺産登録への熱意は伝わるものの、それが佐渡関係者以外・若者には広まっていないことを実感した。そのため、芸術学部の動画の一層効果的な使用方法について検討中である。

これらを踏まえて、2024年2月佐渡において、地域おこし協力隊、DMO、相川車座の方々と、来年度の活動に関して広報関係のニーズをくみ取るべく意見交換をした。

地味であるが、佐渡の人々、報道関係者に本学の自主的な活動を提示し、信頼関係を築いて来年度への礎を築いたと言える。また今後は、新潟日報にも校友が何人もいるので、新潟の校友会での発表も考えている。

## 活動写真

